

保健センターを廃止するって…？

高砂と小菅の保健センターを廃止し、続いて順次保健センターをなくしていくという葛飾区の方向性に、区民からは不安の声が広がっています。

八月に第二子を出産する予定の水元在住の女性は「保健センターは乳児健診だけじゃありません。実家が遠いので、保健師さんが訪問もして、いろいろと相談に乗ってくれるのは、とても助かった。なくなるのは困ります」と、語っています。

感染症の拡大や、薬物依存など、保健所の役割がますます重要になって

いるときに、削減など許せません。

日本共産党は、保健センター廃止反対の署名に取り組んでいます。存続のために力を合わせましょう。



葛飾区議団が学習会をします

みんなで学ぼう

保健センターの役割

高橋貴志子さん

(保健師・都庁職衛生局支部書記長)

5月17日(土) 午後2時より

レインボーホール

(シンフォニーヒルズ別館5階)



後援会のみなさんと

放射能対策とともに原発ゼロを目指す運動や、原発訴訟原告団と連帯し、福島の人たちの苦しみを我が事として、広く、深くつながり、声をあげ続けることが必要ではないでしょうか？

憲法を守り抜く決意新たに

憲法記念日の前に、朝日新聞が行った

全国郵送世論調査で、集団的自衛権について「行使できない立場を維持すべき」と回答した人が、六十三%のばりりました。

今年の五十

六%を大きく上回る結果となり、その他の設問でも、安倍政権の軍事力強化に対して国民が不安を強めていることが表れていま

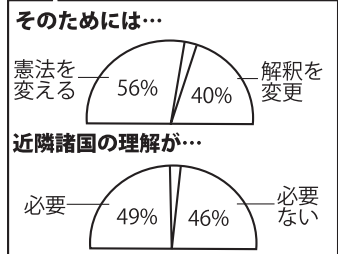
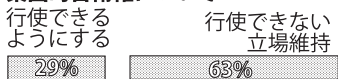
す。(図参照)

憲法9条を変えるために、まず九六条を変え、憲法を変えやすくする。

それが改憲論者の中からも反対の声が上がり、今度は憲法の解釈を変えて集団的自衛権を行使できるようにする。

「首相は私。だから私が決めていいん

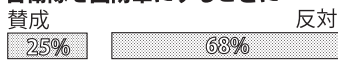
集団的自衛権について



憲法9条を…



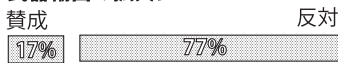
自衛隊を国防軍にすることに…



非核三原則を…



武器輸出の拡大に…



今の憲法を…



その他・答えないは省略

4月7日付「朝日新聞」より

原発事故の訴訟弁護団と懇談しました

四月十四日、原発事故の賠償責任を求める訴訟の弁護団が、日本共産党都議団においていただき、私もいっしょに懇談をしました。

毎回公判のたびに、マスコミも必ず取材し、地元福島ではメディアに取り上げられているということですが、こちらではその様子があまり伝えられていません。

安倍政権が原発の輸出だけでなく、武器の輸出まで進めようとしており、九州の川内原発で再稼働第一号の動きも強まっています。原告団は、模擬裁判も行つて、多くの人に裁判を知ってもらい、支援を広げる運動に取り組んでい

らつしやることでした。

「だ」という趣旨の発言などに、この人の政治家としての独裁的な本質が表れていることを、多くの国民が感じ取っているのだと思います。

「わが子を戦地に送り出すことは絶対にできない」その思いが私の政治の原点です。

その決意あらたに六十七年目の憲法記念日を迎えます。



社保協「なんでも相談会」に参加しました

四月十八日に、葛飾社会保障推進協議会主催の「なんでも相談会」が亀有リリオパークで開催されました。

毎回この取組には、たくさんの方が相談に来ます。

私は、議員になる前から、社会保険労務士として年金や社会保険関係の相談にあたってきました。

弁護士や元教員、葛飾民商や日本共産党区議団、労働組合などさまざまな分野の専門家が、あらゆ

る相談に応じる体制を整えています。

今年は、約六〇件の相談があり、私も二時間の間に五件の相談を受けました。「仕事でけがをしたのに、会社が労災を使わせてくれなかった。」「夫の会社は有給休暇がない」など、深刻な事例もありました。

雇用の現場は深刻です。派遣労働の規制を緩和したり、解雇を合理化しようとする動きをやめ、現行法ですら守られていない現状に政治がストッパーをかける必要があるのではないのでしょうか？



日本共産党都議会議員・和泉なおみの

生活・年金・法律相談

5月14日(水)午後2時より

於・和泉なおみ事務所

事前にお電話ください

毎月第二水曜日に、東部法律事務所の弁護士さんのご協力をいただきまして、「生活・年金・法律相談会」を開催いたします。ぜひ、お気軽においでください。お待ちしております。



(6月は11日(水)です)

若者の生きやすい社会を

和泉なおみ

東京の桜が散り始めた四月初旬、甥っ子の結婚式に参列するため、仙台に帰りました。

震災のとき、エレベーターの修理で県内を走り回っていた彼は、出先で配給の水を上まで運ぶおばあちゃんが大変そうで、手伝ってあげた優しい青年です。小さい頃、よく転んで泣きべそをかいていた姿や、腕白で妹をずいぶん心配させたことなどを次々に思い出して、涙がこみ上げてきました。

その幸せそうな様子に、暖かいものが胸いっぱい広がります。

それにしても、結婚して家庭を持つても自活は難しく、夫婦の暮らしが親との同居が前提でなければ成り立たない状況は、やはり深刻です。

若い世代が、結婚し家庭を持つとうとしたときに、経済的な困難が高い壁となつて立ち足はだかっている現状を目の当たりにしました。

当たり前に働いて、当たり前の暮らしができる社会を、急ピッチで進める必要があるとあらためて感じました。



日本共産党後援会 観劇会 前進座 5月公演

於染久松色読販
(おそめひさまつうきなのよみうり)

5月18日(日)
3時30分開演

国立劇場大劇場

9,800円のところ7,200円

